

上田市議会議長 殿

議員氏名 _____ 齊藤加代美

質問通告書（代表・個別）

下記のとおり通告します。

[主題] 市政について**[副題]** 新型コロナウイルスについて

この頃高温が続き、熱中症が緊急搬送される中、コロナ感染なのか、熱中症なのか区別が難しく、医療従事者への負担が多いというニュースを耳にします。

そして、これから最も懸念する、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行による、医療現場の混乱である。

昨年と全く違う、今年の冬を迎えるにあたり、発熱に対応する、医療機関の負担軽減を鑑みて、発症をある程度抑えられるワクチンがある、インフルエンザの予防接種を市民に推奨していくことが、この特別な冬を乗り越えられる大きな要になると考えます。

そこで、一つ大変懸念することが、インフルエンザによる、学級閉鎖です。このコロナ感染予防のために、この春約2か月の登校できない時期が続き、夏休みは、短期間で実施、年間予定の学習は約80%まで追い上げたと聞いています。

特に上田地域は、インフルエンザ警戒が県内ではもっとも早くでる地域。3世帯で暮らす家族も多い地域柄から、①これ以上の学習の遅れを妨げ、学校の負担軽減②高齢者への感染を防ぐ③保護者負担の軽減する④インフルエンザワクチンの接種率を向上し、感染者を減らす⑤発熱に慎重に対応して下さる医療従事者への負担軽減などの理由から、今年度特別に、小学生、中学生（範囲は思案中）へのインフルエンザの公費負担を要望します。たとえ、1000円負担しても、多くの家庭は大変家計の助けとなります。新型コロナウイルスには、ワクチンはまだありません。ワクチンで予防がある程度可能な、インフルエンザには、ワクチンがあります。医療従事者の混乱を防ぐためにも、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用できないでしょうか。

(1) インフルエンザワクチン接種公費負担について

(ア) 上田市では、この冬のインフルエンザ予防に関して、どのように周知してくのか。

(イ)今年度特別に、小学生、中学生、妊婦〈*対象〉は思案中へのインフルエンザの公費負担は考えられないだろうか。

(2) 新型コロナウイルス検査の拡充について

先日、上田市商工会の懇談会で、各商業部会の皆様から、切実な現状をお聞きしました。特に諏訪メッセの開催中止、県外への営業ができない等、今までの概念での営業が閉ざされ、新規の受注がとれない。特に上田、丸子地域ある特色の産業、自動車産業のダメージが大きいと伺いました。

また、春先の2か月ほどの学校の休校により、従業員の休みも重なり、戦力がとぼつたと。そして、現在夏風邪等で発熱があった場合、療養休暇等で約一週間ほどの休まざる負えない社員もあり、現場は大変緊迫している。発熱等の場合、コロナ検査が早期にできれば、会社も安心して、社員を出社させることもでき、安定し、安心した現場ともなる。

そこで、そのような場合でも、コロナ感染検査を実施してもらえないかと、切実な要望をいただきました。検査方法も新しい方法も進化しています。経済を回す、回復させるためにも、大変重要なことです。

(ア)発熱やコロナ感染が疑われる場合、希望する方に検査を拡充できないでしょうか。

(イ)発熱受診の場合、インフルエンザとコロナの双方の検査が可能なのでしょうか。

(3) 市内新型コロナウイルス発症者の情報について

上田市の感染者について、HP、上田市メール、うえいく、FMとうみなどで、速やかに、感染情報をお知らせしてくださっていることに、感謝します。8月に入り、感染警戒レベル3となった上田では、広報車での周知も始まり、緊張感が高まっていますが、市民の不安は正直つものばかりです。

そこで、上田市のHPの感染者情報から、

しかし、151例の発症者の8/19午前10時45分からの記者会見での公表内では、発症日までの勤務はあるが、不特定多数との接触はなく、現時点でまん延の可能性は低いと考えている。という一つの例をとると、その後、発症者との接触で、何人か感染が明らかになった。

発症者の

5.症状、経過、行動歴等から*〇〇例と接触が確認されたため、と結果だけが報告されています。

(*なぜクラスターという言葉を使わないのか、知りたい)

HPには、

上田保健福祉事務所(上田保健所)管内の新型コロナウイルス感染症感染者に関する情報は、長野県が調査し、公表することになっています。公開される内容等については、人権やプライバシー保護、風評被害などに十分な配慮をし、慎重な検討の中で決定され、公表されております。

上田市では、今後も長野県から公表された情報を速やかにお知らせいたします。

県の発表には、*その他調査中となっており、今の例をとっても、調査の状況が明らかにされておらず、それぞれの考えで関連を考えるしかなく、市民は不安が募るばかりです。

(ア)市独自で分かっている感染者についての正しい調査情報の発表はできないのでしょうか。

(4) たすけあい資金の原資の資金助成増額について

新型コロナ感染のまだ先の見えない、長期化により、ますます

市民生活への影響が拡大すると予測します。先日厚生委員会で、上田市社協との懇談を行い、市民生活へ影響の実態を伺い、今後たすけあい資金の原資の増額が必須だと確認しました。(令和2年5月補正)

上田市社協の報告から、現状は。派遣労働者や非正規雇用労働者の申請が増加し、5月末以降、留学生の申請が急増しているようです。

今後の課題から、特定貸付の申請期限が9月末に迫っており、今後のコロナウィルスの見通しが立たない中で、生計が維持できるのか。の報告でした。

特定貸付は、9月末で、10月からは、通常の貸付条件と戻り、緊急小口資金を借りた方は、もうダブルで借りることが出来なくなります。

そこで、上田市社協の独自のたすけあい資金が重要な貸付となります。

よく比較される、リーマンショック。新型コロナウィルス関連の特定貸付等の状況で、8月上旬現在で、全国で213億円、リーマンショック時期の4倍の貸付け実績です。

平成21年9月~3月リーマンショック期の「たすけあい資金」は253件、9,854,000円だったそうです。今現在の原資は、700万と聞いていま

す。

(ア)緊急生活支援事業として、再度たすけあい資金の原資の助成の増額ができませんでしょうか。